

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価	
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	総合			
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は、85%以上である。	・生徒会や各分掌間で情報共有をしながら普段の学校生活をはじめ、学校行事や集会等、生徒の活躍のチャンスができるだけ多く設け、充実した学校生活となるよう支援していく。	A	B	B	・自分の学校が好きだと感じている生徒の肯定的な評価は79.6%である。次年度はさらに、学校行事や集会等、生徒会や分掌で情報共有しながら生徒の活躍のチャンスができるだけ多く設けられるよう工夫していく必要がある。	今現在、地域社会と協力した多様な活動が行われていて素晴らしいと思う。館林地域は城下町で古い伝統文化と産業が残っている街である。一方最近では、企業誘致等で新しい産業で活気づいている。伝統文化を継承しつつ、現在の社会環境に適した教育活動をさらに進めていってほしい。	
		② 専門教科の特色を生かした教育活動(課題研究等)に、生徒の85%以上が満足している。	・生徒が活躍できる場を提供することによって、生徒自らが積極的、主体的に専門的な学習に取り組める環境を整える。	A	A	A	・専門教科の特色を生かした教育活動に満足している生徒の肯定的な評価は92%である。地域の方々にも積極的に協力していただけた。次年度も課題研究や実習のなかで地域連携をとって専門教科の特色を生かした教育活動を継続していく。		
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	③ 授業について、生徒の80%以上が「分かる授業」だと感じている。	・授業における協働学習やICTを活用した授業の実施により、授業改善を図る。	B	A	A	・昨年度に引き続き、専門科目の特色を生かした教育活動への回答が90%以上という高評価を得ているが、教職員のアンケート結果との数値の隔りが読み取れる。学習指導要領に示す新しい学びのもと、協同学習やICTの活用を通じた授業改善を図る必要がある。	「分かる授業」と「考える授業(分かるまでに時間がかかる)」の間には、多少の開きがあるでしょう。生徒の意識と教職員の意識の差も、そこから生じているのではと推測します。教員からの一方的な授業ではなく、生徒と教員の双方向の授業が今も実践されていると思います。引き続き様々な形態の授業実践がなされると良いでしょう。生徒がまず「自己の目標」が明確化されているのかが出発点になるでしょうが、その点が明確化されていない生徒の回答は、否定的になるかもしれないと思います。進路目標をどの時点で確定すれば良いかについても、「早ければ早い方がよい」という考えと「早ければよいというものではない」という考えの二つがあります。生徒の個性に応じたという面もあることでしょう。	
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	④ 自己の目標に対して、確かな学力を身に付けていると感じている生徒が80%以上である。	・進路実現を達成するために必要とされる学習内容を明確にし、支援することによって学習意欲の向上を図る。	B	A	B	・設問2に示す回答と同等の数値結果を得ることができたが、教職員との分析結果には10%以上の差が生じた結果になってしまった。授業を中心とした改善をもとに、課題および補習等の必要性がある。また、本年度から実施している到達度テスト(英数国)から基礎学力を定着が必要である。		
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑤ 全ての生徒が、学校生活に対して挨拶やマナーを守っていると感じている生徒が85%以上である。	・生徒会役員を中心にマナー・モラルについて考え、行動する機会を設ける。原則的には励まし、認める指導を心掛け、生徒の自己指導能力の育成を図る。	B	B	B	・学校生活に対して、挨拶やマナーを守っていると肯定的に回答した生徒・保護者が81.9%であった。次年度も学校行事等において、マナー・モラルについて生徒自ら考える場面を設けていく。	マナー・モラルについて、生徒自ら考える場面を設けていくということは良いことです。さまざまな思いを抱えている生徒に対して、組織的・計画的にかつ多角的に対応できるということが非常に良いことです。	
		⑥ スクールカウンセラー等を活用し、生徒への早期対応を図り、学校不応者をなくす。	・スクールカウンセラーの活用を促したり、アンケートを実施することにより、現状を把握し、職員間の共通認識と協力体制のもと、早期対応を図る。	A	-	A	・スクールカウンセラーや特別支援コーディネーター、専門アドバイザーとの協力体制が整い、具体的な支援・指導方法を提示することができている。今後も職員の連携を密にして、組織的に対応していく。		カウンセラーやアドバイザーとの協力体制が整っていて、問題も早期に把握、解決できることは大変素晴らしいと思う。これからもより体制を整えていってほしい。
		⑦ 学校は、いじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていると感じている生徒が80%以上である。	・職員研修会を実施し、全職員のいじめに対する認識を高める。 ・職員間で生徒情報を共有し、職員がいじめの兆候を見逃さず、把握した際は組織的な対応を図る。	A	A	A	・職員間の情報共有を密に行い、問題の早期発見に生かすことができた。生徒全員が安心して学校生活を送れるように、職員の研修も行っていく。		挨拶やマナーなど学校生活での学びとともに、社会に出てから習慣、行動が試されると思うので、引き続きご指導をお願いしたい。
	5 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑧ 不規則な生活による遅刻者が、前年比80%以下である。	・生徒に朝学習の意義を深めさせ、5分前登校の一層の推進を図る。 ・遅刻の増加、欠席の兆候が見られた時点で対応を図る。 ・保護者との連絡・連携を密にし、保護者の理解と協力を得る。	B	B	B	・食事や睡眠時間をしっかりととり、ゆとりをもった登校ができていると回答した生徒・保護者が、79.3%であった。規則正しい生活が送れるように、5分前登校の一層の推進を図り、保護者との連携を密にして、協力体制を整えていきたい。	健康で規則正しい生活の推進や法令遵守等については、これからの日本国を背負って立つ若者には大切なことと感じています。継続したご指導をお願いいたします。	
	6 生徒の安全について配慮した指導を行っていますか。	⑨ 交通事故等の未然防止について90%以上の生徒が意識を持っている。	・日頃の交通安全指導や交通安全教室の充実を図り、生徒の交通安全に関する意識を高める。 ・交通マナーに関する問題提起を生徒にも呼びかけ、生徒自身が事故防止を考える機会を増やす。 ・自転車でのヘルメット着用啓発活動を行い、ヘルメット着用率を上げる。	A	A	A	・交通ルールを守り、他人に迷惑をかけない登下校ができていると回答した生徒・保護者が95.4%であった。ただ、交通事故は無くなっていないため、ヘルメットの着用啓発活動を含め、交通ルールの遵守や交通マナーの徹底が図れるように、今後も指導を継続していく。	交通事故防止など、生徒の安全に対する配慮は行き届いているように思います。保護者との密な連携を行い、規則正しい生活が維持できるようにお続けください。	
		⑩ 環境面・健康面で生徒の安心安全を確保するために、適切な対応方法を理解している生徒が80%以上である。	・職員に危機管理や感染症対策について周知し、教育環境の整備や保健衛生指導の充実を図る。 ・生徒主体の防災訓練やセミナー等を実施し、生徒の防災や健康管理に対する意識を高める。	A	A	A	・93.5%の生徒が理解できていると答えている。引き続き感染症予防や熱中症予防、災害時のスムーズな避難などについて、研修会や委員会活動などを通して一層の啓発を図りたい。 ・20.7%の生徒が朝の登校前に、食事や睡眠時間をしっかりととれていないと答えているため、保健委員会等を充実させ、健康面での啓発も行っていきたい。		

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	総合		
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 生徒が自己の特性を認識し、それを積極的に生かす指導を行っていますか。	⑪ 進路実現に向けて資格取得や技能習得に積極的に取り組んでいる生徒の割合が90%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> 科を中心として課外・補習等の指導体制を整え、学年団や進路指導部とも連携して上級資格の取得を目指す。 進路ニュースや進路の手引を活用し、各学年に応じた進路ガイダンスを実施する。 3学年全員の面談を行い、生徒の特性に合った進学や企業選択を支援していく。 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 88%の生徒が肯定的に答えたが、目標の90%に達しなかった。検定対策学習だけでなく、資格取得の重要性と必要性、および社会的な役割について説明し、自ら学び、行動する力を身につけさせることが必要である。 	まとめ及び課題にあるように、資格の重要性・必要性、および社会的な役割等について理解を深め、自ら学び行動する能力を高めることが大切だと思います。
	8 適切な進路決定を行えるよう、保護者の協力を得ていますか。	⑫ 進路実現について、85%以上の生徒や保護者が進路情報を理解し、関心を持っている。	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導部と学年団の連携を密にし、学年会で、進路指導や情報等を検討し、各担任が保護者面談に活用できるようにする。 3学年保護者会では、進路ニュースや進路の手引などを活用し進路情報を提供する。 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の約90%、保護者の約88%が肯定的に答えた。1年次からの進路ガイダンスや生徒全員参加のインターンシップの実施、さらに、面談をこまめにしていることが良い影響となっている。また、ICTを利用した求人票等の進路情報の発信を、今後も継続して行っていく。 	就職に関しては、本校から就職する有用性をもっと生徒や保護者の面談の時に強く説明指導をはかっていただきたい。
	9 進路実現を積極的に行うことができるよう、校内での組織的な取り組みを行っていますか。	⑬ 進路実現に向け、面接や小論文などに、3学年の80%以上の生徒が主体的に意欲を持って取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師による進路ガイダンスや職業講話を実施し、生徒の進路実現の意欲向上を図る。 就業体験・先輩からの進路報告会等をととして、職業観の育成や進路実現に向けて努力の重要性と自分自身の課題を自覚させる。 3学年においては、長期休業中を利用し、コミュニケーション能力や文書作成能力向上のために、面接練習や小論文対策を実施する。 	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 79%の生徒が肯定的に答えた。1年生から進路ガイダンスやインターンシップに参加させ、3年生においては面接練習や作文(小論文)対策を行ったが、進路への取組を後回しにしている生徒が一部見受けられた。探求学習等で生徒がエージェンシーを発揮できる環境を作る必要がある。 	早い時期でのガイダンスやインターンシップ、こまめな面談によって進路選択に積極的な生徒が多いように伺えます。雇用環境の変化が急速なので、よりの確な情報提供が求められるかもしれません。
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	10 家庭、地域社会に対して、学校教育活動を積極的に発信していますか。	⑭ 本校の教育活動について、保護者の80%以上が関心を持っている。	<ul style="list-style-type: none"> 学校の教育活動や成果の情報発信を強化するため、Webページの充実を図る。また迅速な更新ができるように、Webページの作成方法や構成を検討する。 	A	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事をはじめ、校外の活動等において情報発信をすることができた。今後も、学校HPを通じて情報発信を行ってきたい。 部活動の紹介ページにおいて、一部の部活動の内容更新が遅れている部がある。各部と連携し、迅速に更新ができるよう作業していきたい。 	情報発信・交流活動・広報活動等を通して、館林商工高校の教育活動の周知が図られていると感じています。
		⑮ PTA総会や学年保護者会等に、積極的に参加している保護者が70%以上である。	<ul style="list-style-type: none"> PTA行事への保護者参加について案内や説明を行うとともに、支部組織を活用して、積極的な参加を呼びかける。 	B	-	B	<ul style="list-style-type: none"> PTA総会出席率46.1%、公開授業出席率55.6%、学年懇談会出席率64.5%であった。総会が出席率が低く、書面評決でも良いという意見が多かった。スポーツや研修旅行も参加率が低いが、生徒の様子を見たいという希望はあるようなので、今後工夫が必要である。 	PTA活動の減少は、時代の流れで仕方がない部分であることは認めません。保護者に学校状況をさらに理解してもらう情報発信を増やす、情報発信をより見ってもらうようにするという観点からの取り組みがあれば十分かと思えます。
	11 家庭、地域社会の教育力を活用していますか。	⑯ 学校運営協議会を活用し、実施可能な提言を2つ以上取り入れ、学校運営改善に役立っている。	<ul style="list-style-type: none"> 本校の重要課題を明確にし、協議会委員からの評価・要望を受け、改善に取り組む。 	A	-	A	<ul style="list-style-type: none"> 提言を受け、館林第九小学校と連携し、毎年九小が行っている地域農家との稲刈りの行事に、本校生徒が参加することができ、地域や小学校との連携が図れた。その中で本校工業科で製作した脱穀機を小学生にも体験してもらい、工業やものづくりに興味を持ってもらう機会を得られた。また、商業科においては、お米の販売経路や広報活動などを、小学生にレクチャーする機会が得られた。今後は単発ではなく、継続的に地域農家、地域小学校等と連携を行ってけるとよい。 	今後人口減少に伴い、近隣の公立高校との競争になることが予想される。当校に入学したいと思えるような特色を出していかなければならない。当校の特色としては、地域の学校や企業等との連携については、様々な地域のイベントについて積極的に参画しており、社会人としてのいち早いスキルを持てるという点、また地元大手企業への就職を推薦として先輩方が就職しており、就職するなら館林工となるよう就職率を上げていただきたい。
		⑰ 地域の社会人を講師とした講演会を年2回以上実施している。	<ul style="list-style-type: none"> 講演会を実施する前後に、専門教科において事前指導や事後指導を設け、継続的な授業になるよう実施する。 	A	-	A	<ul style="list-style-type: none"> 専門科目の授業として、建築科では11月に館林市都市建設部区画整理課より館林駅周辺のまちづくりに関する講義を全学年で実施するとともに、9月に2年生を対象に建築設計製図に生かすパース着色に関する講義を実施した。さらに建築士製図試験講座や建設業界セミナーを年度内に実施予定。また、保険安全部では、足利大学より講師を招き、エイズ講演会を実施した。 	
12 地域の学校や企業等と連携していますか。	⑱ 地域住民や地元企業等と連携した活動を年3回以上実施している。	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究等を通じ、地域のイベント等に参加することで交流を図る。また、地元企業とも連携を図り、多くの教育機会を創出する。 ボランティア活動へ積極的に参加し、地域との交流を深める。 	A	-	A	<ul style="list-style-type: none"> 商業科および工業科：1年生全員を対象に10月末に短期インターンシップを実施。課題研究において、「地元館林の伝統織物である館林紬の復興に向けた商品開発やものづくり」、「生コンクリートの普及活動・連携活動の一環」を実施。商業科では、5月から11月まで7事業所において、3年生10名が長期インターンシップを実施。 工業科：9月に1年生を対象に安全体感体験教室、明和町と地元企業2社による安全教育を実施。課題研究において、「明和町協働まちづくり事業として明和町庁舎キッズスペースの製作」、「地元企業における機械加工の見学・体験」を実施。 商業科：課題研究において、「梨、百年小麦のPR」、「ブルドックソースとの連携活動」、「明和町議会モニター(3年目)」、近隣校と連携した「クビアカツヤカミキリの駆除啓発活動」等を積極的に展開。県と包括連携協定を結び「とりせん」と共同商品開発(3年目)で、12月に惣菜を販売。来年度も継続して交流を深めていきたい。 	地域の学校や企業等と連携については、様々な地域のイベントについて積極的に参画している。館林市や館林商工会議所を通して、企業(正田醤油)とのコラボ商品を販売(やみつきタレ)や館林を代表する「百年小麦」「館林紬」のPR等を努める等様々な課題研究や実習の中で、地域連携を通して特色を生かした教育活動がなされており、商工会議所としても、今後も地元や企業の魅力をこれまで以上に知ってもらえるよう、学校と連携を図っていきたい。	
		⑲ 地域の幼稚園・小中学校・大学と連携した教育活動を年2回以上実施している。	<ul style="list-style-type: none"> 各教育機関と連携を図り、社会人として必要な幅広い教養を身に付ける。また、専門高校の良さをPRする。 	A	-	A	<ul style="list-style-type: none"> 商業科：3年課題研究授業の一環で、館林市及び明和町在住の幼稚園児から小学生及びその保護者を対象に、年4回地域の食文化の継承を目的に「うどん打ち教室」を実施した。 生産システム部および商業科：8月に部員の製作物(誰でも弾けるピアノ)をこども園に持参し、情操教育を実施。 建築研究部：近隣校の有志とともに、館林旧市庁舎の利活用に向けたワークショップに年4回参加。 	小中学校、企業、町議会、地域等と幅広く活動が実践されており、非常に素晴らしいです。関係者等との意見交換を通じて、さらに充実したものとなっていくことでしよう
Ⅵ 教育デジタル化に努めていますか。	13 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑳ 生徒の80%以上が「ICTを用いた授業が行われている」と回答している。	<ul style="list-style-type: none"> 授業にICTを活用することで、分かりやすく、生徒が興味関心をもてるよう授業改善を図る。 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度との結果より、ICTを活用した指導の割合が減少傾向にある。ICTを用いた定着のもと、新しい学びとして生徒同士の学び合いを取り入れた授業も増え、授業内容および生徒の実態に応じた授業への工夫が多様化した結果である。 	授業でのICT活用がよいよ本格化する状況ですので、生徒が自主的に学びを進められるような工夫が必要なのではないかと考えます。
	14 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㉑ 働き方改革に伴う、業務の効率化を図り、職員会議及び職員朝会のペーパーレス化を75%以上実施している。	<ul style="list-style-type: none"> 資料の性質上、ペーパーレスが可能なものについては積極的に実施していく。また必要に応じてパスワード設定等のセキュリティ対策も講じる。 	A	-	A	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議や朝会等、ペーパーレス化を進めてきた。次年度もペーパーレス化を推進していく。ICTを活用することで可能になる業務改善もさらに推進していく。 	企業は、人手不足による業務の効率化をDX化により進む方向なので、今後もICTに触れる機会を増やしていただきたいです。